

- 27.その上に山々を高く聳えさせ、また清鮮な水をあなたがたに飲ませたではないか。
- 28.(真理を)嘘であると言って来た者たちにとり、その日こそ哀れである。
- 29.(仰せられよう。)[赴け、あなたがたが嘘であると言って来た所(地獄)へ。
- 30.赴け、あなたがた3つの枝(に立ち登る煙)の陰に。]
- 31.それは影にもならず、また燃え盛る炎に対しては役に立たないであろう。
- 32.それは(巨大な)砦のような炎を吐き、
- 33.丁度(狂奔する)黄褐色のラクダのよう。
- 34.(真理を)嘘であると言って来た者たちにとり、その日こそ哀れである。
- 35.それは、発言することが出来ない日であり、
- 36.また申し開きも、かれらに許されないであろう。
- 37.(真理を)嘘であると言って来た者たちにとり、その日こそ哀れである。
- 38.それは裁きの日であり、われは□あなたがたも(あなたがた)以前の者たちも、一緒に集める。
- 39.あなたがたに何か術策があるのなら、われに向かって策謀するがいい。
- 40.(真理を)嘘であると言って来た者たちにとり、その日こそ哀れである。
- 41.主を畏れる者は、本当に(涼しい)影と泉の間にいるだろう。
- 42.かれらが欲する、凡ての果実(を得る)。
- 43.[心の底から満足して食べ且つ飲め、あなたがた(の善い)行いをしたことに対して。](とわれは言おう。)
- 44.このようにわれは、善い行いの者たちに報いる。
- 45.(真理を)嘘であると言って来た者たちにとり、その日こそ哀れである。
- 46.(あなたがた不義の者よ。)[しばしの間食べ且つ享樂するがいい。本当にあなたがたは罪深い者である。]
- 47.(真理を)嘘であると言って来た者たちにとり、その日こそ哀れである。
- 48.かれらは、「立礼〔ルクーン〕せよ。」と言われても立礼しない。
- 49.(真理を)嘘であると言って来た者たちにとり、その日こそ哀れである。
- 50.この(クルアーン)を差し置いて、どんな教えをかれらは信じようとするのか。

SURA 78.消息章 [アン・ナバア]

慈悲あまねく慈愛深きアッラーの御名において。

- 1.何事に就いて、かれらは尋ね合うのか。
- 2.偉大な消息に就いて。
- 3.それに就いて、かれらは意見が果なる。
- 4.いや、かれらはやがて知ろう。
- 5.いや、いや、かれらはやがて知るであろう。
- 6.われは大地を、広々としなかったか。
- 7.また山々を、杭としたてはないか。
- 8.われはあなたがたを両性に創り、
- 9.また休息のため、あなたがたの睡眠を定め、
- 10.夜を覆いとし、
- 11.昼を生計の手段として定めた。
- 12.またわれは、あなたがたの上に堅固に7層（の天）を打ち建て、
- 13.輝やかなしい灯し火を（その中に）字置き、
- 14.われは雲から豊かに雨を降らせ、
- 15.それによって、穀物や野菜を萌え出させ、
- 16.様々な園を茂らせる。
- 17.本当に裁きの日は定められていて、
- 18.その日、ラッパが吹かれるとあなたがたは群をなして出て来る。
- 19.天は開かれて数々の門となり、
- 20.山々は移されて蜃気楼のようになる。
- 21.本当に地獄は、待ち伏せの場であり、
- 22.背信者の落ち着く所、
- 23.かれらは何時までもその中に住むであろう。
- 24.そこで涼しさも味わえず、（どんな）飲物もない、
- 25.煮えたぎる湯と膿の外には。
- 26.（かれらのため）相応しい報奨である。
- 27.本当にかれらは、（その行いに対する）清算を希望しないでいた。
- 28.またかれらはわが印を嘘であると言って、強く拒否した。

- 29.われは一切のことを、天の書に留めている。
- 30.だからあなたがたは（自分の行いの結果を）味わえ。われは懲罰を増加するばかりである。
- 31.本当に主を畏れる者には、安全な場所（樂園）がある。
- 32.緑の園や、ブドウ園、
- 33.胸の脹れた同じ年頃の乙女たち、
- 34.またな・な・と（溢？）れる杯。
- 35.そこではつまらぬ話や偽り言を聞かない。
- 36.これらはあなたの主からの報奨、賜物の決算である。
- 37.天と地、そしてその間の凡てのもの主、慈悲深き御方（からの賜物であり）、誰もかれに語りかけることは出来ない。
- 38.聖霊と天使たちが、整列して立つ日、慈悲深き御方から御許しを得て正しいことを言う者以外には、誰も口をきくことが出来ない。
- 39.それは真実の日である。だから誰でも望む者は、主の御許に戻るがいい。
- 40.本当にわれは、懲罰が近いと、あなたがたに警告した。その日、Iは、自分の両方の手が前もって行ったもの（所業）を見るであろう。不信者は、「ああ、情けない、わたしが塵であったならば。」と言うであろう。

SURA 79.引き離すもの章〔アン・ナーズィアート〕

慈悲あまねく慈愛深きアッラーの御名において。

- 1.荒々しく（罪深い者の魂を）引き離すものにおいて（誓う）、
- 2.優しく（信仰深い者の魂を）引き出すものにおいて、
- 3.泳ぐように（慈悲の使いに）滑走するものにおいて、
- 4.先を争って前進するものにおいて、
- 5.（主の命令で）事を処理するものにおいて（誓う）。
- 6.その日（第一のラッパで）、震動が（凡てのものを）揺がし、
- 7.次のラッパ（で震動）が、続く。
- 8.（不信者の）心は、その日戦き震え、
- 9.目を伏せるであろう。
- 10.かれらは言う。「わたしたちは初め（生前）の状態に、本当に返るのでしょうか。
- 11.何と、わたしたちは朽ち果てた骨になってしまったのに。」